

南相馬の鹿島

ホームステイ経験したドイツ青年 被災保育園におもちゃ贈る

第二の古里に恩返し

自動車など 園児大はしゃぎ



おもちゃに遊ぶかしま保育園児。後方はヨハネスさん家族

平成八年に南相馬市鹿島区の栗原利行さん(六七)婦人服縫製De

ar社長宅に十九月ホームステイし相馬高に通ったドイツ青年ヨハネス・ハスさん(三〇)と両親は一日、大震災による津波、原発事故の被害を受けた同区のかしま保育園を訪れ、約五十万円分のドイツのおもちゃをプレゼントした。

旧東ドイツ生まれのヨハネスさんはホームステイ後に勉強して国費留学生として中央大に入學、日独をつなぐ自動車コンサルタント会社に入社して日本で活躍している。妻も日本人。父のウベさん(五七)はペンションと保

険会社を経営、母パールに園児約百四十人が集合。八善美喜子園長がステージの幕を開く。園児は舞台を埋めたおもちゃに歓声を上げて大はしゃぎ。

九月に子どもが生まれたばかりのヨハネスさんは「子どもたちの喜び顔に、泣きそうなほど感動した」と満面の笑みを浮かべた。家族ぐるみのつきあいをしてきた栗原さんも「これだけ喜んでもらえてうれしい」と満足そうに話した。

ヨハネスさん家族は津波で被害を受けた海岸部も視察、世界的な大地震が引き起こした大津波の威力を実感した。



美しい景観を願い植樹する

今回の植樹祭は只見線の復旧、さらに水害からの町の復興も願って実施した。水害のボランティア活動を通じて交流ができた東京のアースデイ東京タワー・ボランティアセンターも協力。同センターが金山町で企画した宿

意する他、交流会や観光などのプログラムを提供する。期間は十二月二十三日から二十八日までを予定している。本県内の中学生を中心に構成した団体(部活動や地域のクラブチーム、習

岡山の団体が受け付け、6日までのメールで申し込む。団体名、岡山大の学生や教職員活動の内容、引率者を含めた参加人数、学年と男女の構成、合宿期間中に行いたいこと、申し込みの動機、連絡

た。

部活頑張る本県中学生おいで

ton@g mail.c 6 om



審査委員長の六角孝子二科会理事が「素晴らしい作品ばかりで選ぶのに苦労した。子ども笑顔など元気をもらえる」と、一点一占講評した。(入賞者は10月22日付に掲載済み)

レザークラフト

きょうまで郡山

日本レザークラフト

協会県支部の「県支部展2011」は三日まで、郡山市のビッグアイ・市民ふれあいプラ

ザで開かれている。七月に神戸市で開かれた同協会の公募革工展で

最高賞の協会優秀賞に選ばれた浅見美弥子さん(郡山市)の「耀(かがや)いて」など約六十点が並んでいる。作品展は隔年の開催。福島郡山、須賀川、白河の各市の会員ら二十人がパネル、バッグ、皿などの革工芸品を出展している。革細工のネックレスを制作する無料体験コーナーもあり、ものづくりの楽しさに触れることができる。

斎藤美保子支部長は「ダイナミックな表現と細かな技巧の調和に注目してほしい」と話している。入場無料。開場は午前十時から午後五時まで。



来場を呼び掛ける斎藤支部長(右)と浅見さん(中央)ら。右手前の作品が「耀いて」